



Subaru

男声合唱団

ニュース№414 '13. 5. 30

満席の感動で大成功！！

5. 26 千秋昌弘テノール ソロコンサート

□ “愛と平和を歌って50年・人生70年”と題して我が男声合唱団「昴」の団長の「千秋昌弘テノールソロコンサート」が5月26日（日）に東成区民センター大ホールで開催され、満席の観客（定員615、会場席に着かなかった出演者も含めると全部で700余名）の熱い支持のもとに、会場全体の大きな感動を巻き起こし、大好評を得ました。



プロローグの「淀川三十石舟唄」

□プロローグのもう1曲「シルクロード」につづいて《第一部》「日本の歌」、「ドイツ歌曲」、「オペラアリア」、温かみのある林久美子さんの司会、森二三先生のピアノで、透明度と緊張感をたたえた、うた心あふれる、声量ゆたかな全力投球のテノールが会場を魅了して行きました。



《第一部》『日本の歌』；「星よお前は」、「桜横町」、「紫陽花」、「初恋」、「わが母のうた」、
『ドイツ歌曲』；「魔王」、『オペラアリア』；「星は光りぬ」、「誰も寝てはならぬ」。
森先生のピアノも良く弾きこんでピッタリの息、弾く手が踊っていました。

□ 《第二部》の皮切りは「コール大東」の仲間 16名による「コール大東と一緒にみんなで歌おう」として、会場と一緒に「夏は来ぬ」、「茶摘み」、「夏の思い出」メドレーを合唱し、その後「底力のタンゴ」をコミカルな振り付きで歌い、さすが、日本のうたごえ「金賞」の実力で会場を笑いと感動で包みました。



□ 《第二部》の続きは千秋さんの「千秋 一言あいさつ」、歌の大好きな少年だった千秋さんが、「愛と平和の歌」と共に生きてきた人生が、来場の皆さんの熱い友情に支えられてきたことに対する感謝を述べ、良い世の中にして、7年後の77歳には77名の友人の前で「耄寿記念コンサート」を開きたいと笑いと拍手をさそいました。



□ その後平和の歌「さとうきび畑」、人間尊厳の歌「にんげんをかえせ」、愛と平和の歌「アメイジング グレイス」を再び、渾身のテノールソロで歌いました。



□休憩の後の《第三部》はまず、合唱朗読構成「紫金草物語」（短縮版）を「関西紫金草合唱団」を中心に「奈良紫金草合唱団」それに遠方から駆けつけてくれた「東京紫金草」の2名「金沢紫金草」の1名の応援を得て、本並先生指揮、森先生のピアノ、二胡の鳴尾牧子さんを加えて全32名のステージで演奏しました（前ページ写真）。朗読は藤井文子さん、兵士のソロ千秋さん、少女のソロは田中牧子さん、東条英機役は岡邑さん、中国人の告発の叫びは藤後さんで、心を込めた演奏に会場の熱い拍手が起こりました。

□続いて大阪のうたごえ事務局の常任委員会副委員長の立川孝信さんから、この11月に開催される65周年記念「日本のうたごえ祭典・おおさか」へ向けての訴えをしました。

□最後に「男声合唱団昂」が登場し、東北支援曲であり、「日本のうたごえ祭典・おおさか」の男声合同曲である「おらぁごころがよい」と、「地底のうた」を力いっぱい歌いました。千秋さんは恒例の「ねむったぼうやの・・・」のテノールソロです。迫力のあるシュプレヒコールはいつもの乾さんと奥村さん。終章が高らかに演奏されると満場一杯の拍手が起こりました。

□指揮本並先生、ピアノ森先生、アコーディオンは田中幸男さんと安場みどりさん、ステージは全39名で勤めました。写真はリハーサル風景。本番は赤シャツと9条バッジでステージにのぞみ、「地底のうた」



をステージで歌うのが今回初めての団員も懸命の暗譜で立派な演奏になりました。

□ここで、千秋さんと奥さんに花束を贈呈しました。プレゼンターは石橋章一さんと田中牧子さん。奥さんは二人が若いころ「若駒」で、皆で共同生活をしながらうたごえ運動を広めていた時の信頼関係で結ばれた「同志」の間柄で、あったかいフランクなお人柄です。

□最後にアンコールで「フィンランディア」を演奏しました。1番は千秋さんのソロ、2番を昂全員で高らかに歌い、暖かい拍手が鳴りやまない中で今日の演奏を閉じました。

□移動観覧席の設営・撤収に汗を流した皆さん、受付や会場案内で要員をつとめた皆さんご苦労様でした。プロジェクトを進めてきた皆さまもご苦労様でした。成功をお祝い申し上げます。チケットが拡大しすぎたため、入場をお断りしなければならないことを覚悟して、岡邑さんと立川さんは背広とネクタイで威儀を正し、悲壮の面持ちで受付に立ちました。ところが結果は、日ごろの精進がよかったか、丁度満席の入場で、立ち見も無く、めでたしめでたしの笑顔の上首尾となりました。



こちら美声の司会は林久美子さん

□打ち上げは近くの「延羽の湯」で、時間のある人40数名で行いました。千秋さんの奥さんや親せきも同席され結婚式のため会場には来られなかった千秋さんのお姉さんの夫妻も駆けつけて、普通の打ち上げとは一味違った「祝賀会」になりました。



打ち上げ風景



乾さんの音頭で恒例の「おおさか締め」